

はしもと

〈病院理念〉

地域に根づいた患者様に信頼される病院づくり

〈基本方針〉

～心のかよう病院を目指して～

まごころの医療を目指します

常に良質な医療の提供を心がけます

健康増進、疾病予防の推進に取り組めます

〈病院運営のコンセプト〉

1. 気づきの医療
2. わかりやすさ



新年挨拶（理事長）

新年明けましておめでとうございます。

令和8年の幕開けにあたり、医療法人社団和風会を代表して謹んでご挨拶申し上げます。日頃より当法人の活動に多大なるご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

日本は世界でも類を見ない長寿社会となりましたが、一方で、寿命と健康寿命の差である「不健康な期間」の縮小は依然として大きな課題であります。私たちは、慢性期医療・急性期医療・介護サービスが分断されることなく連続的に提供される仕組みを強化し、患者様が最期までその人らしく生きることのできる地域づくりを目指して取り組んでまいりました。

その取り組みの集大成の一つとして、本年3月に介護医療院を開設予定であり、医療と生活支援を一体的に提供できる体制が整いつつあります。これにより、地域の皆様により切れ目のないケアを届け、人生の最終段階においても安心できる環境を提供できるものと考えております。

今後も、持続可能で質の高い医療・福祉サービスを提供するべく、全職員一丸となって努力してまいります。結びに、令和8年が皆様にとって健やかで希望に満ちた一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



医療法人社団和風会

理事長 橋本 康子



新年挨拶（病院長）

新年明けましておめでとうございます。

病院長として病院運営に携わる中で、三豊・観音寺地域に求められる医療の姿が一層明確になってきました。高齢化の進展に伴い、慢性期医療、認知症ケア、回復期リハビリテーション、そして生活支援の重要性は増すばかりです。こうしたニーズに応えていくために、当院は「地域に根づいた患者様に信頼される病院づくり」という理念のもと、日々の医療の質向上に努めております。

本年は、これまで取り組んできた「主観的ウェルビーイングの向上」をさらに推進するとともに、3月に予定している介護医療院の開設に向けて体制整備を進めてまいります。医療と介護が途切れずつながることで、患者様とご家族が安心して療養生活を送れる環境を提供できるようになると確信しております。

健康とは、医学的治療のみならず、心の安定や日々の満足感が伴ってこそ成り立つものです。当院では、患者様に寄り添うケアを重視し、医療・介護・地域が一体となって幸福度の高い暮らしを支える病院を目指します。

令和8年も、地域の皆様に支えられながら橋本病院が安心と信頼の医療を提供できるよう、職員一同、心を新たにに取り組んでまいります。

本年も、どうぞ変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



医療法人社団和風会 橋本病院

病院長 平尾 徹



回復期リハビリテーション病棟

■回復期リハビリテーション病棟の特徴



当院では365日、1日最大3時間のリハビリに加え、更衣や整容、食事に排泄、入浴といった日常生活動作（ADL）のすべてをリハビリと捉えています。その為、リハビリ室で行う練習より、病棟でのリハビリを多く行っています。各病棟にリハビリスタッフを配属し、日常生活の中でリハビリテーションを行います。

■リハビリの各職種



理学療法士（PT）

病気や怪我、加齢などで低下した身体機能を運動療法（歩く・立つ・座るなど）を用い改善させる職種です。骨折や脳卒中、廃用症候群などの患者様を中心に理学療法を実施しています。当院の特徴として、脳卒中患者様に装具を用いて回復を促進させる装具療法を多く行っています。

作業療法士（OT）

病気や怪我、加齢などで困難となった日常生活の再獲得を目指し、作業を通じて改善を目指す職種です。当院では、リハビリ職種が病棟配属になっている為、朝や夕の着替え、整容、排泄、食事など日常生活場面で作業療法を実施しています。

言語聴覚士（ST）

「話す」「聞く」といったコミュニケーションや、「食べる」といった摂食・嚥下機能の障害を持つ方に対し、言語練習や摂食嚥下練習を通じて改善を目指す職種です。また、高次脳機能障害、認知症といった脳の働きに関するリハビリも実施しています。



装具を用いた歩行練習



病棟での着替え練習

■看護師の役割 ～ 昼間と夜間で異なる支援 ～



昼間の看護師の役割

- ・日常生活向上につながる生活援助（食事、排泄、移動、整容、更衣などの“できる”ことを増やす）
- ・リハビリスタッフと連携（生活の中で変化を共有し、リハビリ計画に反映）
- ・医療処置、家族指導（自宅を想定した動作練習、介護方法のレクチャー）
- ・医療・生活リスクの予防（誤嚥、転倒予防）

夜間の看護師の役割

- ・患者様の安眠支援と安全確保（排泄介助、体位変換、疼痛、不安の緩和）
- ・夜間の急変・異常の早期発見
- ・持続点滴、酸素管理などの医療処置
- ・夜間の生活リズム調整（昼夜逆転の予防、眠れない方への対応）
- ・翌日のリハビリに向けた身体のコンディションの調整

認知症治療病棟

2025年10月24日 本山寺へ紅葉を見に行きました



10月は紅葉を見に本山寺へ外出してきました。イベント当日は天候にも恵まれ、穏やかな秋晴れの様子に、「外は気持ちいい」「天気も良いし丁度ええ気温やわ」など話をしながら、写真を撮ったり、散歩をしたり、お茶を飲んだり、境内を回りながら楽しい時間を過ごしました。

認知症治療病棟では毎月1度、季節や時期に応じたイベントを行っています。

今後も患者様に楽しんでいただくことができるような活動を計画していきます。

訪問リハビリテーションセンターはしもと

訪問リハビリの役割



当センターでは、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かし、日常生活の自立や趣味の再獲得、利用者様のライフスタイルに合った生活目標を立ててリハビリを提供しています。

生活目標を立てるうえで大切にしていることは、利用者様の「したいこと」に寄り添うことです。

実際に自宅で生活してみると、入院中には気づかなかった問題点や悩みが出てくる場合があります。利用者様とご家族様が安心して暮らせるように、健康状態や運動能力、環境なども含めて具体的な目標と一緒に検討していきます。また利用者様の生きがいや役割となる活動をともに考え、ご本人様が主体的に選択し生活できるようにサポートしていきます。

① 自主トレーニングの提供



② 動作訓練

実際の環境・道具を活かした練習



③ 環境調整

(道具を使う、やり方を変える)

道具や環境面での工夫



栄養部



脳きらり教室へ講師として参加

「脳きらり教室」は、三豊市の一般介護予防事業の一環として開催されており、9月は「認知症と食生活の関係」ということで、手ばかり法の話（食事の量）やバランスよく食べるための含言葉等、興味を持っていただけるように、食に関するクイズや脳を活性化させるクイズを取り入れました。

ご興味のある方は、本院管理栄養士までお気軽にご連絡ください。



おいしい食の備え

当院では、季節の行事やお寿司の日、赤飯の日など毎月イベント食を提供するだけでなく、非常時の対応として備蓄している非常食をアレンジして提供する日があります。もしもに備えて備蓄食料はありますか？

食料の備蓄方法の1つに「ローリングストック法」があります。普段の食材を少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古い食品から消費し、消費した分を買い足す方法です。

『備える』→『食べる』→『買い足す』を繰り返し、無理なく無駄なく備えておけます。「おいしい食の備え」を始めてみませんか？



非常食のご飯
(鶏ごぼうご飯)



非常食のおかず
(肉じゃが)
食材を追加し味調整



非常食の粥
(雑炊)

院内感染防止対策委員会

～冬季感染症について～

冬は気温が低くなり、空気が乾燥するためウイルスが浮遊しやすくなります。鼻や喉の粘膜が乾燥し、ウイルスが侵入しやすく、体温が下がることで免疫力が弱くなり、ウイルスの活動が活発になるため、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症、ノロウイルスなどの感染性胃腸炎が流行しやすい季節です。特に、今年はインフルエンザの感染に注意が必要です。

インフルエンザ

2025～2026年シーズンは、例年より早く流行が始まった地域が多く、特に **A (H3N2) 亜系統の変異株** が国内外で確認されており注意が必要です。

インフルエンザの感染経路は「飛沫感染」「接触感染」です。



感染予防のポイント

- ① 正しい手洗い … 爪、指の間、親指、手首などに注意して汚れを浮かし、流水でしっかり洗い流すことが重要です。
- ② 咳エチケット … せき、くしゃみ、鼻水などの症状がある時は、マスクを着用しましょう。
- ③ こまめな換気と適切な湿度（50～60％）に保ちましょう。
- ④ 十分な休養と栄養バランスのとれた食事をするように心がけましょう。
- ⑤ ワクチンの接種



当院では引き続き「マスクの着用」「換気」「手指消毒」など、基本的な感染防止対策を実施しております。皆様のご協力を宜しくお願いいたします。



栄養管理委員会

お腹の調子、いかがでしょうか ～便秘について～

便秘とは「本来体外に排出すべき糞便を十分量かつ快適に排出できない状態」と定義されています。

有症率は一般人口の2～28%です。平成28年度厚生労働省による国民生活基礎調査によれば、本邦における有訴率は20～60歳では男性2.5%に対して、女性が4.6%と圧倒的に多く、60歳以降では男女ともに加齢に伴って増加し、80歳以降では男女共に10.8%と性差がありません。便秘の要因としては、疾患によるもの、薬剤性、食事摂取量不足（水分、食物繊維など）、筋力低下（骨盤底筋群、腹圧）などが挙げられますが、特に高齢の方においては複数の要因が絡み合うことが多いようです。便秘により食欲低下をきたし必要エネルギー量の確保ができないことがあり、積極的なリハビリテーションを行えないことがあります。



● 食事の工夫

- ① 水溶性と不溶性の食物繊維を含む食材を取り入れましょう
摂取量適正化（18～20g/日）で症状改善が図れる場合が多いといわれています
- ② ヨーグルトなど乳酸菌を含む食材を活用しましょう
- ③ 適度に油脂の摂取を心掛け排便を促しましょう

● 生活の工夫

- ① 水分を積極的に摂りましょう
- ② 適度な運動を取り入れ、腸の働きを助けましょう
- ③ 下剤などの薬は医師の指示を守りましょう



便秘の改善が図れると、社交性・活動性が高まり生活の質（QOL=Quality Of Life）の向上に繋がります。これからの「人生100年時代」を楽しく送りましょう。

患者サービス委員会

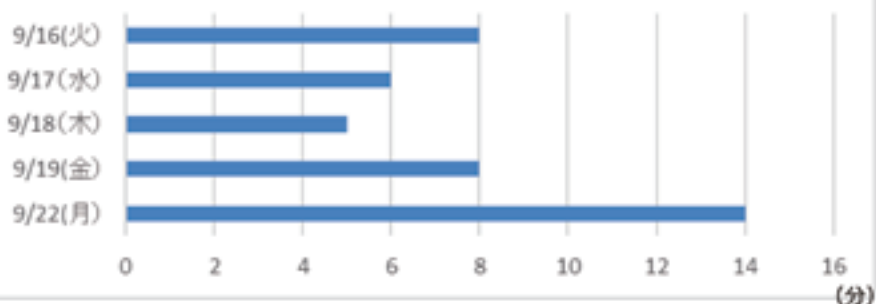
外来待ち時間調査

患者サービス委員会では定期的に「外来待ち時間調査」を実施しています。病院に行くと待ち時間が長くて疲れたり次の予定があったりと、大変な経験をした方も多くいるのではないのでしょうか。

当院では少しでも待ち時間の短縮に繋がるよう、待ち時間調査を実施しています。9月に実施した「外来待ち時間調査」の結果の一部をご紹介します。



受付時間から診察開始までの平均待ち時間



今回の平均待ち時間は、月曜日の14分が最長であり、前回と比べると、待ち時間は短縮されました。前は整形外科の受診曜日に偏りがあったため、診療枠の調整や、健診などの予約を朝一にするなどの時間配分を意識することによって、今回の待ち時間の平均時間が短縮されたと思われます。今後も継続して、上記の事を意識しながら、円滑に診療が実施できるように努めます。

	9月16日	9月17日	9月18日	9月19日	9月22日
平均 (分)	8	6	5	8	14

第33回日本慢性期医療学会（併催）第13回慢性期リハビリテーション学会

開催日：2025年11月6日（木）～7日（金）

開催場所：大阪国際会議場（大阪府）

参加者：13名（発表者8名）

本学会のテーマは、「慢性期医療の匠になろう！：坂の上をめざして」であり、地域医療構想や慢性期医療についての様々な講演が企画されていました。また、本学会では一般演題の全てがポスター発表でした。従来のスライドでの発表とは異なり、ポスターならではの見せ方の工夫が感じられました。

学会発表を通して日々の臨床を振り返ることで気づくことも多く、また学会を通して新たな知見も得ることができました。



「職場復帰を目標とした患者への介入 効果的な非薬物療法の実践について」神原由梨子（看護師）
 「排尿障害患者への自宅退院に向けた支援の取り組み～患者の不安に寄り添って～」藤目千穂（看護師）
 「認知機能評価の視覚化についての試み」山口奈美（公認心理師）
 「半側空間無視・注意障害を呈した症例に介助量軽減を目指して」森山泰斗（作業療法士）
 「聖隷式嚥下質問紙と摂食嚥下リハビリテーション関連検査（評価）項目との関係」白川卓（言語聴覚士）
 「左放線冠ラクナ梗塞を呈し、歩容改善に対して介入した症例～内反尖足と骨盤Swayに着目して～」近下翔馬（理学療法士）
 「心原性脳塞栓症により姿勢定位・サッケードの障害を呈した一症例～掃除動作獲得を目指して～」井下遥香（理学療法士）
 「高位脊髄損傷者のポータブルスクリングバルンサーを使用した食事動作獲得に向けて、座位姿勢に着目した一例」辻裕成（作業療法士）

表彰

日本医療機能評価機構

当院は平成10年に初めて日本医療機能評価機構の認定を受け、以来、継続して認定をいただきながら常に医療の安全・質の向上に取り組んでまいりました。

日本医療機能評価機構が設立30周年を迎えるにあたり、「永きにわたり医療の質向上に多大な貢献をされた施設」として感謝状をいただきました。このたびの表彰は、これまでの努力が評価されたものと受け止め、今後も地域の皆さまに信頼される医療の提供に努めてまいります。



日本赤十字社

長年にわたり赤十字事業の発展に尽力した功績が認められ、金色有功章が贈られました。

金色有功章は、赤十字の理念に基づき、医療・福祉活動の向上に貢献した個人や団体に贈られる非常に名誉ある章で、当院の活動が社会的に評価されたことを示すものです。

今後も、地域医療の充実と赤十字活動の推進に努めてまいります。



実績報告

回復期リハビリテーション病棟 合計89床（1病棟29床、2病棟60床） 2025年度 前期 実績

年月	平均在院日数 (日)		発症から入院までの平均日数 (日)					退院患者数及び退院先 (日)				
	1病棟 (29床)	2病棟 (60床)	脳血管		運動器		廃用症候群	自宅	施設	病院	その他	(合計)
			180日	150日	90日	60日						
4月	92	76	59.8	34.6	23.4	27.7	-	21	5	4	0	30
5月	92	83	29.0	23.8	20.5	-	-	19	10	6	0	35
6月	81	87	44.0	21.3	17.1	17.0	21.0	18	2	4	1	25
7月	67	85	57.5	28.5	26.5	12.0	26.0	28	5	8	0	41
8月	78	89	30.4	25.6	21.0	13.0	17.0	16	4	4	0	24
9月	83	80	28.4	21.8	15.9	-	14.5	23	9	4	0	36

平均在院日数

病院の入院治療機能の指標の一つで、入院してから退院するまでの期間が平均して何日かを表しています。

【計算式】 在院患者延日数 ÷ (新入院患者数 + 新退院患者数) ÷ 2 * 直近3ヶ月

地域連携部

～ 事前面談について ～

安心してご入院いただくため、紹介元医療機関のご協力のもと、事前面談を実施しています。
面談は、当院についてのご説明と患者様の状態確認を1時間程度でさせていただきます。

【お問い合わせ内容】	入院前の生活状況	既往歴	リハビリ目標
【お伝えする内容】	入院生活について	入院の準備物	CSセットについて
	入院手続きについて	感染症対策	予約制面会について

入院相談は、
お気軽にご連絡
ください！
地域連携部
窓口：大西
0875-63-3552
(直通)



職員募集のお知らせ

募集

看護師・准看護師
介護福祉士・介護職
☆入職支度金制度あり



まずは、病院見学にお越し下さい！
給与等詳細は、当院ホームページでも閲覧できます。
<http://www.wafukai-hashimoto.jp>
TEL 0875-63-3311 (人事担当：松永)

医療法人社団和風会 橋本病院
〒768-0103
香川県三豊市山本町財田西902番地1
TEL：0875-63-3311
FAX：0875-63-2651
入院相談直通電話：0875-63-3552
E-mail：hashimoto-hp@wafukai-hashimoto.jp
HP：http://www.wafukai-hashimoto.jp
発行元：橋本病院 広報委員会

医療 回復期リハビリテーション病棟 89床
認知症治療病棟 60床

介護 橋本病院指定居宅介護支援事業所
通所リハビリテーションセンターはしもと
訪問リハビリテーションセンターはしもと

